

『学習者主体の授業』って?

今、大きく変化している子どもたちの学び方

問合先／本庁学校教育課指導G(内線5313)

本市では、子どもたちが自分で考えたり、友達と話したり、振り返ったりしながら、学びを深める「学習者主体の授業」づくりに取り組んでいます。

これは、教師が教えるだけではなく、子どもたち自身が「どうしてだろう」と問い合わせを見つけ、「どうすればうまくいくかな」と先を見通しながら、何度も試し、工夫しながら答えを探します。友達と話し合い、力を合わせることで、一人ではできないことも挑戦します。そして、学んだことを振り返り、「次はこうしてみよう」と自分の成長につなげていく取り組みです。

全ての小・中・義務教育学校で、「子どもたちが分かった」「できた」と感じる授業を目標としています。そして、子どもたちも教師も笑顔になれるような、魅力ある授業づくりを進めていきます。



【川内北中学校3年生「国語科」】

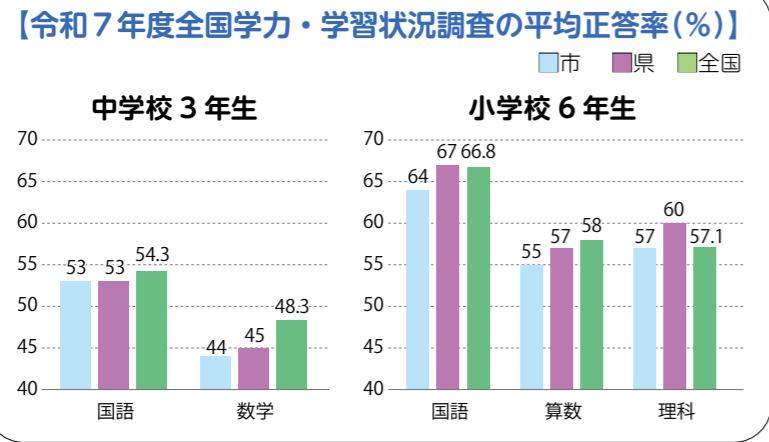


【永利小学校3年生「国語科」】



「学習者主体の授業」を進めるために、学校での学びと家庭での学びがつながっていることが大事です。家庭での勉強も、宿題だけではなく、自主的に「こんなことをやってみたい」「こういったふうに進めよう」と考えて取り組むことが、これから求められる力を伸ばすことにつながります。

子どもたちの学びが
もっと深まる家庭学習
マイゴールチャレンジ



▲令和7年度全国
学力・学習状況
調査の調査問題

今年度の問題については、二次元コードからご覧ください。本市で正答率を特に下回った算数・数学の問題は、小学校算数の④(2)と中学校数学の③でした。

今年度の問題については、二次元コードからご覧ください。本市で正答率を特に下回った算数・数学の問題は、小学校算数の④(2)と中学校数学の③であります。

この調査は、全国の子どもたちの学力や学習状況を把握・分析するとともに、成果と課題を明らかにし、改善につなげるためのものです。

今年度から中学校理科の調査が、初めてCBT方式(コンピュータを活用した調査方式)で行われました。

この調査は、全国の子どもたちの学力や学習状況を把握・分析するとともに、成果と課題を明らかにし、改善につなげるためのものです。

今年度から中学校理科の調査が、初めにCBT方式(コンピュータを活用した調査方式)で行われました。

この調査は、全国の子どもたちの学力や学習状況を把握・分析するとともに、成果と課題を明らかにし、改善につなげるためのものです。

今年度から中学校理科の調査が、初めにCBT方式(コンピュータを活用した調査方式)で行われました。

調査の結果と課題

【朝食を毎日食べていますか】

	市	県	全国
小学校	82.0%	83.5%	83.3%
中学校	82.4%	82.2%	78.7%

※朝食を毎日食べている子どもたちの数値

約2割の子どもたちが朝食を毎日食べていないことが分かります。

朝食を食べないと生活習慣の乱れ、授業中の集中力や学習意欲の低下につながります。

【学校に行くのは楽しいですか】

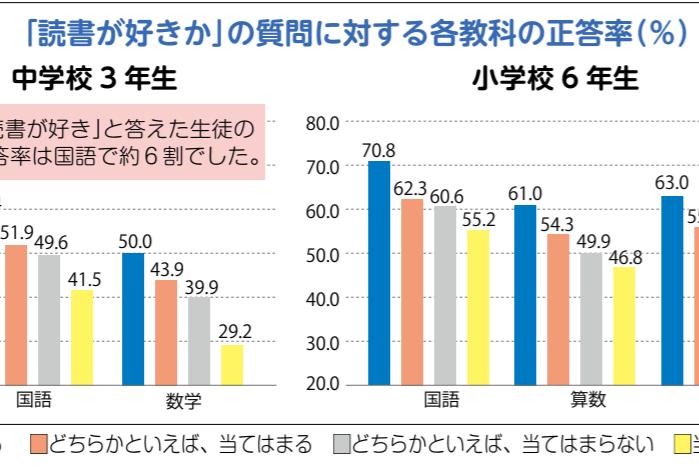
	市	県	全国
小学校	92.0%	88.6%	86.5%
中学校	89.6%	88.5%	86.1%

※当てはまる、どちらかといえば当てはまるの合計

「学校に行くのが楽しい」と答えている子どもたちがとても多いことが分かります。今後はさらに学力向上に取り組んでいきます。

日常生活に関する調査結果

調査の結果、本市の子どもたちの中で、「読書が好き」と答えたのは約3割でした。そして、「読書が好き」と答えた子どもたちは、学力の高い傾向があることも分かりました。



読書は、語彙力や読解力を育てる大切な習慣です。家庭でも、親子で読書をするなど、子どもたちが本に親しみを大切にしましょう。

県では、「家庭学習マイゴールチャレンジ」として、学校と家庭が協力して、子どもたちが目標に向かって楽しく学べるような取り組みを始めています。自分なりの目標を決めて、楽しみながら取り組んでいます。

学習者主体の授業

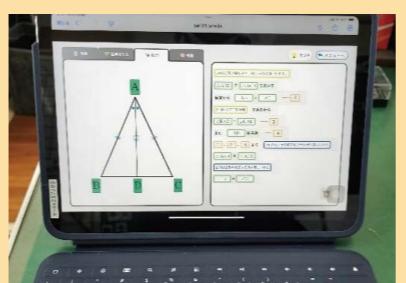


家庭学習

授業で○○について疑問に思ったよ。家でもう少し詳しく調べたいな。

授業で分からなかった問題が得意になるように、もう一度取り組もう。

【平成中学校2年生】



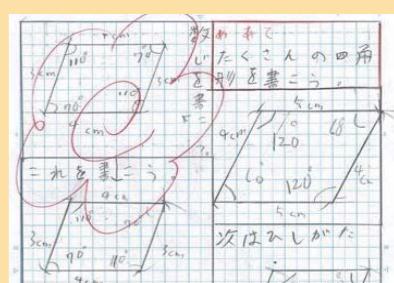
▲授業内容を確認するために取り組んでいるタブレット学習

【鹿島小学校1年生】



▲数の学習を生かして作成した絵本

【峰山小学校4年生】



▲苦手分野を克服するために取り組んだ家庭学習ノート

子どもたちの取り組みを紹介!